

Title	研究・教育活動業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2017
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC Review Keio University). Vol.4, No.1 (2017. 3) ,p.46- 49
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	記録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000004-0046

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

記録

研究・教育活動業績

(2016年1月～12月)

凡例＝本記録は研究員による研究・教育活動の業績一覧であり、研究員の投稿にもとづくものである。1. 著書・訳書、2. 論文、3. 学会発表、4. 講演・展覧会・ワークショップ等、5. その他。

松田隆美 (所長 研究員 文学部教授)

2. 論文

松田隆美「イメージの効用をめぐる不安—15世紀イングランドの宗教文学をめぐる—」神崎忠昭編『断絶と新生—中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治』(慶應義塾大学出版会、2016.3), pp. 115-33.

Takami Matsuda, "Performance, Memory, and Oblivion in the *Parson's Tale*", *The Chaucer Review*, 51(2016), 436-52.

5. その他

松田隆美「〈執筆ノート〉『旅の書物／旅する書物』松田隆美(編)」『三田評論』1196(2016.1), 95.

大川恵子 (副所長 メディアデザイン科教授)

4. 講演、展覧会、ワークショップ等

Keiko Okawa, Marcos Sadao Maekawa, Rinrada Khansuwan, Komkid Topoklang, Mana, Yamamoto, Daisuke Yukita, Kohei Kosuge, Yuta Gotoh, Shintaro Matsufuji, "Designing Innovative Global Education Approaches with ICT and New Media", 18th UNESCO-APEID International Conference, October 2016, Bangkok, Thailand

Marcos Sadao Maekawa, Keiko Okawa, "Global Citizenship in the Internet-based Society: Re-designing Global Education for Younger Generations", 18th UNESCO-APEID International Conference, October 2016, Bangkok, Thailand

重野寛 (副所長 理工学部教授)

2. 論文

梅田沙也華, 大畑百合, 神本崇史, 重野寛, "モバイルアドホックネットワークにおけるノードの行動に

適応したトラストモデル", 情報処理学会論文誌, Vol.57, No.2, pp.471-479, 2016年2月.

森研太, 神本崇史, 重野寛, "コンテンツ指向型ネットワークにおける帯域を考慮した分散キャッシング手法", 情報処理学会論文誌, Vol.57, No.2, pp.611-619, 2016年2月.

Keiichi Yasumoto, Hirozumi Yamaguchi, Hiroshi Shigeno, "Survey of Real-time Processing Technologies of IoT Data Streams," *Journal of Information Processing*, Vol. 24, No.2, pp. 195-202, March 2016.

梅田沙也華, 神本崇史, 大畑百合, 重野寛, "Named Data Networkingにおけるユーザへの影響を考慮した Interest Flooding Attack 対策手法", 情報処理学会論文誌, Vol.57, No.8, pp.1816-1825, 2016年8月.

3. 学会発表

Takashi Kamimoto, Kenta Mori, Sayaka Umeda, Yuri Ohata, Hiroshi Shigeno, "Cache Protection Method Based on Prefix Hierarchy for Content-oriented Network," The 13th Annual IEEE Consumer Communications & Networking Conference (CCNC 2016), pp.424-429, January 2016.

Ryoki Shinohara, Takashi Kamimoto, Kazuya Sato, Hiroshi Shigeno, "Cache Control Method Mitigating Packet Concentration of Router caused by Interest Flooding Attack," The 15th IEEE International Conference on Trust, Security and Privacy in Computing and Communications (TRUSTCOM-16), pp.324-331, August 2016.

Yuri Ohata, Takashi Kamimoto, Ryoki Shinohara and Hiroshi Shigeno, "Cooperation Incentive System Balancing Virtual Credit in Mobile Ad hoc Networks," The 13th EAI International Conference on Mobile and Ubiquitous Systems: Computing, Networking and Services (MobiQuitous 2016), pp.218-226, December 2016.

4. 講演、展覧会、ワークショップ等

篠原涼希, 神本崇史, 大畑百合, 重野寛, "Named Data Networking における Interest 記録数を考慮した Interest Flooding Attack 対策," 情報処理学会 マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO 2016) シンポジウム, pp.336-343, 2016年7月.

佐藤和也, 神本崇史, 重野寛, "ICN における Data の通過情報を考慮したキャッシュへのルーティング手法の検討," 情報処理学会 マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO 2016) シンポジウム, pp.993-1000, 2016年7月.

安藤広道 (研究員 文学部教授)

2. 論文

「コクゾウムシは何を食べたか」『魂の考古学—豆谷和之さん追悼論文編—』227-236頁

4. 講演、展覧会、ワークショップ等

*講演

・「文化財の可能性とは?—デジタル技術への期待」DMC 研究センターシンポジウム—第6回 デジタル知の文化的普及と深化に向けて—『デジタル知が広げる文化財の可能性』11月22日 慶應義塾日吉キャンパス西別館1

*展覧会

・「文学部創設125年記念企画展 氷期に生きた北の狩人 慶應旧石器時代研究88年の歩み」三田キャンパス慶應義塾図書館展示室 開催期間2015年1月8日~2月6日(分担)

*ワークショップ

・「触る!楽しむ!縄文ミュージアム」未来先導基金公募プログラム2015年度実験授業日吉学一探究・体感:縄文人の見た日吉—第1回 10月22日 慶應義塾大学教養研究センター

5. その他

*展示図録

・『文学部創設125年記念企画展 氷期に生きた北の狩人 慶應旧石器時代研究88年の歩み』慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室 編著

*パネルディスカッション

・「文化財の可能性を広げるデジタル知とは?」DMC 研究センターシンポジウム—第6回 デジタル知の文化的普及と深化に向けて—『デジタル知が広げる文化財の可能性』11月22日 慶應義塾日吉キャンパス西別館1

小菅隼人 (研究員 理工学部教授)

2. 論文

小菅隼人「身体とその奥にあるものをめぐって—舞踏家中嶋夏に聞く」.『慶應義塾大学日吉紀要: 言語・文化・コミュニケーション』. 第48号. 慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会, 33-61頁. 2016/12/31.

小菅隼人「けがれを超えて: パフォーマンスと東北(身体・霊性・巡礼)」. *Performance Studies international Fluid States 2015 Tohoku, Japan: Select conference proceedings*. 慶應義塾大学アート・センター, 10-13頁. 2016/07/25.

小菅隼人「劇団雲版『マクベス』(1972年)における土方巽振付の魔女について」.『慶應義塾大学アート・センター年報(2015/2016)』. 慶應義塾大学アート・センター, 108-117頁, 2016/07/01.

小菅隼人「パフォーマンス研究の可能性とDMC: Pシ #21 Fluid States 2015 Tohoku の概要とその意義」.『慶應義塾大学DMC紀要』第3号. 33-57頁. 2016/03/28.

3. 学会発表

国際学会口頭発表. Hayato Kosuge. "Conference and Performance on Land Affected by Emotions: Pシ #21 Fluid States 2015 Tohoku." 22th Pシ conference. メルボルン大学, 2016/07/06.

国際学会口頭発表. Hayato Kosuge. "Staging Past Disasters with Butoh Dance: Ohno Yoshito's "Flower and Bird/Inside and Outside"." FIRT/IFTR International Federation for Theatre Research 2016 conference, ストックホルム大学, 2016/06/17.

金子晋丈 (研究員 理工学部専任講師)

2. 論文

Fast Handover Mechanism for High Data Rate Ground-to-Train Free-Space Optical Communication Transceiver for Internet Streaming Applications Kosuke MORI (Keio University), Masanori TERADA (Keio University), Daisuke YAMAGUCHI (Railway Technical Research Institute), Kazuki NAKAMURA (Railway Technical Research Institute), Kunitake Kaneko (Keio University), Fumio TERAOKA (Keio University), Shinichiro HARUYAMA (Keio University) IEICE Transactions on Communications vol.E99-B no.5, pp. 1206-1215, 2016/05

4. 講演、展覧会、ワークショップ等

*国際会議

Daisuke Ando, Jason Leigh, Fumio Teraoka, and Kunitake Kaneko. 2016. Improving file sharing performance for web-based collaboration systems by using content espresso. In Proceedings of the 12th Asian Internet Engineering Conference (AINTEC '16). ACM, New York, NY, USA, 33-40. DOI: <https://doi-org.kras1.lib.keio.ac.jp/10.1145/3012695.3012700>

Kei Mikami, Daisuke Ando, Kunitake Kaneko, and Fumio Teraoka. 2016. Verification of a Multi-Domain Authentication and Authorization Infrastructure Yamata-no-Orochi. In Proceedings of the 11th International Conference on Future Internet Technologies (CFI '16). ACM, New York, NY, USA, 69-75. DOI: <http://dx.doi.org.kras1.lib.keio.ac.jp/10.1145/2935663.2935673>

*国内シンポジウム講演

たゆまぬ発展と進化を続けるデジタルアーカイブを創るには

NFC シンポジウム : 「映画におけるデジタル保存と活用のためのシンポジウム」 2017 年 1 月 27 日.

*国内研究会

多様な特徴量情報の抽出を可能にするオープンなデジタルアーカイブシステム

佐藤友哉・寺岡文男・金子晋丈 (慶大) 映情学技報, vol. 40, no. 16, MMS2016-46, pp. 45-52, 2016

年 6 月.

自律分散的な複数音声メディアの同期配信における切替応答時間とサーバ負荷の評価

北村太知・安藤大佑・金子晋丈・寺岡文男 (慶大) 信学技報, vol. 116, no. 137, IN2016-32, pp. 55-60, 2016 年 7 月.

広域分散ストレージシステム Content Espresso におけるチャンク取得時間短縮手法の提案

安藤大佑, 寺岡文男, 金子晋丈 第 17 回 インターネットテクノロジーワークショップ 2016 年 7 月.

ネットワーク状況に対して即時的な制御を可能にする仮想 MAC アドレスの設計と実装

坪川浩之・近藤賢郎・寺岡文男・金子晋丈 (慶大) 信学技報, vol. 116, no. 361, IN2016-71, pp. 29-34, 2016 年 12 月.

ID/Locator 分離プロトコル ZNP における通信者の匿名化と接続点の秘匿

池田裕介・近藤賢郎・金子晋丈・寺岡文男 (慶大) 信学技報, vol. 116, no. 362, IA2016-71, pp. 47-52, 2016 年 12 月.

Catalogue システムにおけるグラフの重要度表現のためのアクセス数保存・提供手法

佐野岳史・寺岡文男・金子晋丈 (慶大) 信学技報, vol. 116, no. 361, IN2016-75, pp. 51-56, 2016 年 12 月.

ネットワークオントロジー Bonsai を利用したネットワーク管理手法に関する一検討

三上 啓・川口慎司・大島涼太・島松健太・近藤賢郎 (慶大)・鎌谷 修・明石 修 (NTT)・金子晋丈・寺岡文男 (慶大) 信学技報, vol. 116, no. 400, IN2016-86, pp. 7-12, 2017 年 1 月.

Information Centric Networking における複数キャッシュ方式の最適配置の検討

黛 拓朗・金子晋丈・寺岡文男 (慶大) 信学技報, vol. 116, no. 434, IA2016-86, pp. 43-48, 2017 年 1 月.

新世代ネットワークアーキテクチャ ZNA における

DTN を考慮した Layer-5 拡張

三武大樹・渡邊大記・金子晋丈・寺岡文男（慶大）
信学技報, vol. 116, no. 434, IA2016-89, pp. 61-66,
2017 年 1 月.

一般的なルータで構成されるネットワークにおける
IEEE1588 の時刻同期精度の検証

堀田幸暉（慶應大）・塩原翔太・岡廻隆生（Soft
bank）・寺岡文男・金子晋丈（慶應大） 信学技報,
vol. 116, no. 491, IA2016-92, pp. 13-18, 2017 年 3
月.

階層型 ICN 機構 ZINK における Diameter を用いた
認証認可機構の提案

近藤賢郎・金子晋丈・寺岡文男（慶大） 信学技報,
vol. 116, no. 491, IA2016-101, pp. 57-62, 2017 年
3 月.

池田真弓（研究員 理工学部専任講師）

1. 論文

池田真弓「『健康の庭』—本草挿絵の諸問題について」『言語文化』、33 号、28-46 頁。

池田真弓「デジタル画像を用いた 15 世紀装飾本の
顔料分析の試み」『慶應義塾大学 DMC 紀要』、3 号、
58-62 頁。

2. 講演、展覧会、ワークショップ等

*Memory, the (Re-)Creation of Past and Digital
Humanities*（「記憶、過去の（再）創造とデジタル
人文学」）、平成 27 年度「慶應義塾クラスター研究
推進プロジェクトプログラム」創造クラスター「西
洋初期印刷本の書誌学的研究成果を統合する画像付
きデータベースの構築」プロジェクト主催国際シン
ポジウム 運営、司会。2016 年 3 月 15 日。

石川尋代（DMC 研究センター特任講師）

4. 講演、展覧会、ワークショップ等

安藤広道，金子晋丈，石川尋代，“デジタル知の文
化的普及と深化に向けて—DMC のプロジェクト
—”，Hiyoshi Research Portfolio 2016(HRP2016)，
2016 年 11 月.